

令和6年度(2024年度)高校講座実施報告  
(1月分)

●栃木県 私立國學院大學栃木高等学校(令和7年1月27日)

講演テーマ: ~グローバル社会を生きていく~

講師: 総合外交政策局 人権人道課 安保愛 首席事務官



●埼玉県 県立浦和西高等学校(令和7年1月31日)

講演テーマ: 高校生が外交官になるまでに考えたこと

ー外交官になるには・外交官になったらー

講師: ASEAN 代表部 中條一夫 公使



### 参加者からの感想(抜粋)

- 価値観が異なる国との交流は苦勞すると思ったけど、国際交流をするためには、まず相手を信頼して話をする事と、国に関して興味を持つことからどんどん知識の幅を広げていけば自然と価値観を理解することができる事が分かった。
- 国際交流をするためには、信頼関係がある相手でも氣遣うことが多く、また交渉相手になったつもりで考えることが大事だと氣づいた。これからは、興味が湧いたものにはとりあえずチャレンジし、とにかく自分の世界を広げる努力を意識的にしていきたい。
- 国家間にある問題を共通の課題として中立の立場をとることが大事という意識が素晴らしい考え方だと思った。自分も将来の夢を叶えるだけでなくその仕事への取り組み方や意識の持ち方についても今のうちから考えたい。
- 今回の講座を通して、私は私自身が思っていたよりはるかに様々な国に対して偏見があるのではないかと氣づいた。それぞれの国に住む人々の様子や文化を以前より能動的に調べ、国際情勢に対する理解を深めようと思った。
- 世界で活躍する上で、留学やホームステイなどを通じて得ることのできる経験は大切なのだなと思った。外務省などの世界を動かす活動などもとても興味深く、特に二国間の首脳会談で通訳をしている姿は憧れる。
- 会話＝語学×中身という考え方が、とても説得力があった。度胸という要素を加え、立体図形のような例えで話してくれたのが分かりやすく、このような理解させる説明力も、外交官となる上で講師が培った能力の一つのよう感じた。
- 外交の仕事について様々な角度から知ることができ理解を深められた。また、英語が苦手な伸び悩んでいたが、文法や中身などをバランスよく伸ばすのが大事だと知った。
- 外務省は堅苦しいイメージを持っていたが、面白い講師で楽しく学ぶことができた。私も日本と外国を繋ぐような仕事をしてみたいと思っていてそのためには、様々な手段があることを改めて知ることができた。
- 講師の方の経験や詳しい仕事の説明などから外国について興味を持ち、進路として視野に入れて調べていきたいと感じた。また、講座の中で「自由は自己責任」という話は、講師がアメリカの学校で1年間学んだ経験からの言葉であり、根拠に納得したし、印象的だった。